平成元年３月発行

国際交流

ふれあいのひろば

第４号

発行
岡山市国際交流協議会
岡山市役所秘書課内
〒700 岡山市大供1-1-1
TEL. 0862－25－4211

姉妹都市縁組20周年を迎えて
～ 中米サンホセ市 ～

岡山市国際交流協議会会長　梶 谷 忠 二

平素から、本協議会の活動に対しましては御理解と御協力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

元号が平成と改まった本年１月には、コスタリカ共和国サンホセ市との縁組20周年を迎えました。これまで滞り気味であった両市の交流も、昭和62年10月の市民親善訪問団の派遣を契機に、63年の瀬戸大橋博'88岡山への出展・交流、そして、岡山サンホセ交流協会の発足と「サンホセ市展」の定期的開催等により次第に深まりつつあります。本年６月には、縁組20周年を記念して「中米コスタリカ・サンホセ・フェア（仮称）」を岡山市と共催で実施する予定で準備を進めているところであります。

御承知のとおり、コスタリカは世界でも有数の平和国家であり、首都サンホセ市郊外には国連平和大学が立地し、また、昭和62年10月にはアリアス大統領がノーベル平和賞を受賞するなど世界の注目を集めています。

サンホセ市と縁組を締結した昭和44年は、人類史上初めて、他の天体に足跡をしるした年であり、月面には「われわれは人類を代表して平和のためにやって来た」と刻まれた銘板が残されています。

世界平和への貢献という高い見地からも、姉妹・友好都市との交流の促進をステップに、広く世界と友好関係を深めて参らなければならないと考える次第であります。

振り返って、岡山市を取り巻く社会情勢をみますと、昨年の新岡山空港の開港、瀬戸大橋の開通に加え、ディズニーランドと並ぶ世界的レジャーランドであるチボリ公園の誘致が決まり、また、本年６月には岡山市が市制施行100周年を迎え、様々な事業を展開されるものと期待され、今後一層、国際化が進展することが予想されます。

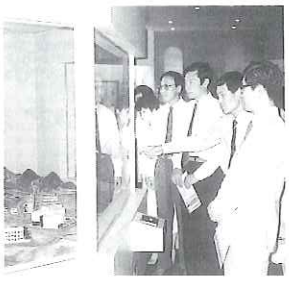
本協議会は本年４月、発足５年目を迎えますが、交流事業も一層充実させて参りたいと考えておりますので、会員の皆様におかれましても、市民レベルでの交流の担い手、リーダーとして、一層の御活躍をいただきますよう心からお願い申し上げます。

瀬戸大橋博'88岡山「サンホセの日」（左＝コスタリカ代理大使祝辞、右＝名産プレゼント）

技術向上と友好促進のために

第３回洛陽市技術研修生が来岡

岡山市の友好都市である中華人民共和国洛陽市（昭和56年４月縁組）から、日本の先進技術を学ぶために昨年９月、技術研修生６名が来岡しました。研修生は本年８月まで岡山に滞在し、それぞれの専門分野の研修を受けるとともに、市民との親善にも努め、毎日元気に頑張っています。



◀**市内視察**　研修生は市立水道記念館（写真）をはじめ、岡山城・オリエント美術館・中央図書館等、市内の施設を見学。

▶**岡山到着**　９月13日、市職員や友好団体の出迎えの中、新幹線で岡山入り。岡山の印象は「とてもきれいな街」。

▶**研修生を囲む会**　12月３日、『洛陽市技術研修生を囲む会』に出席。会員や市民約90名と懇談。「四季の詩」の合唱を披露。

◀**会長表敬訪問**　本協議会の梶谷会長を表敬訪問。研修生に同行来日の劉昆外事弁公室主任が記念に洛陽ボタン画を手渡す。

◀**日本語学習**　来岡当初から日本語の勉強には熱心で、講座に参加（写真）したり、宿舎での独習にも余念がない。

〔研修生紹介①職業・所属等②研修機関③研修生分野〕

閻　保　定

①洛陽工学院副教授
②岡山理科大学
③工業自動化とミニコンピュータ応用

写真左が閻さん▶

〈研修生のひとこと〉

中国はまだ発展中なので各方面の先進技術が必要です。私は大学教師として、何でも一生懸命に研修しなければならないと思います。理科大学の成久教授は色々な知識を、また、喜田・濱子両先生は日本語を教えてくださいます。帰国後は中日友好と祖国の近代化のために貢献したいと思います。皆さん、美しい牡丹が咲く春に、是非、洛陽に来て下さい。

朱　天　倫

①洛陽医専附属病院主治医師
②済生会総合病院
③内科

写真左が朱さん▶

〈研修生のひとこと〉

６か月の岡山生活で感じたことは、①町全体が清潔で靴が汚れない。②車・歩行者とも交通規則を守っている。③礼儀正しく挨拶し、特に、店員の客への対応は買い物をしなくてはいけないような気持ちになるほど親切等々。不便な点は、④市内には公衆トイレが少い。⑤緑化が不十分で木陰が無く、特に、夏には歩行者や自転車とも大変だと思うことです。

張　河　新

①洛陽工学院講師
②岡山大学
③機械制御

写真左が張さん▶

〈研修生のひとこと〉
私は計測工学研究室でコンピュータ・ソフトや潤滑油圧の研究をしています。近年、中国でもコンピュータ運用が盛んになりましたが、岡大は母校より進んでおり、今回の研修中、小西・鷲尾先生の御指導の下、多くの収穫を得たいと思います。今後は日本語を勉強しながら、最新技術の習得・応用研究を続け、帰国までには研究論文にまとめる予定です。

李　炎

①洛陽工学院技師
②岡山理科大学
③金属材料

写真右が李さん▶

〈研修生のひとこと〉
私は理科大学の橋本研究室で金属材料の原子構造について電子顕微鏡を使って研究しています。この間、日本人が仕事や研究に非常に熱心なことに大変感動しました。教授室には『老驥伏励、志在千里』の額があり、橋本先生は「頑張らなきゃ」とよくおっしゃいます。洛陽の主人や娘も「よく頑張れ」と励ましてくれます。今後も一生懸命に研究します。

胡　小　成

①洛陽第一人民病院医師
②岡山市立市民病院
③眼科

写真中央が胡さん▶

〈研修生のひとこと〉
市民病院と岡大医学部の眼科で人工水晶体移植術と先進的検査技術を勉強中です。これまで、市役所・市民病院や多くの友達に色々お世話になりました。友達はこたつや電気毛布を贈ってくれたり、休日に一緒に旅行したり、自宅で日本料理を味あわせてくれました。心から感謝の意を表わします。これからも、私は中日友好と研究に専念したいと思います。

胡　存　珍

①洛陽市三友理髪店
②㈱創美栄・美容院
③美容

写真右が胡さん▶

〈研修生のひとこと〉
私はシルクロード美容室で店長さんの仕事を見学したり、店員さんをモデルに実習をしており、忙しいけれども楽しい毎日です。
日本に来て半年になりますが、洛陽には冷蔵庫部品製造工場に勤務する主人と2歳の娘がいます。主人は時々届く手紙で「このたびの機会を生かして、美容と日本語をしっかり勉強しなさい」と激励してくれます。

公式訪問～洛陽市を訪ねて

昨年10月、『岡山市友好訪中団』が洛陽市を公式訪問しました。一行は八木肇助役を団長とする6名で、今後の交流について協議する等、友好を深めました。

▲**空港到着**　14日午後、北京から1時間20分のフライトで秋雨の洛陽空港に到着。空港では白光第副市長らの熱烈歓迎を受ける。

▼**表敬訪問**　14日夕方、洛陽市人民政府（市役所）を表敬訪問。関係者との再会を喜び合うとともに、今後の友好を確認した。

▲**交流協議**　15日は白馬寺（中国最古の寺院）や龍門石窟（中国三大石窟の一つ）等を視察後、市幹部との交流協議に参加。洛陽側から経済開発特別区の指定、投資歓迎等の説明を受け、経済交流促進の可能性、今後の交流事業等について熱心に協議。

「姉妹都市の想い出」

サンノゼの息子娘たちと再会

会員・ボランティア通訳
ホームステイ引受家庭・交換学生教師
正 野 としの〔主婦〕

昨年夏、夢がかなえられて、サンノゼにいる私の子供達に会いに行くことができました。これまで、私の家に滞在した、メキシコダンスの先生ルディさん、交換留学生のディビッド君、マーガレットさん、ブライアン君、ペギーさんに再会したのです。

サンノゼ空港に着いてキョロキョロしていた私の耳にとびこんできたのは、さわやかな声、「おかえりなさい。」ペギーさんでした。私もつられて「ただいま！」しばらくは日本語の会話が続きました。彼女は私の日本語の生徒でもありました。車2台に分乗して、子供達が出迎えてくれたのでした。このように再会できるとは、岡山とサンノゼは近いなと感じました。

一週間の滞在の間、いれかわり、たちかわり、観光案内をしてくれたり、夕食に連れていってくれたり、日曜日には教会にも連れていってくれました。ポットラック（もちより）パーティを開いてくれた週末の夜、ルディさんがメキシコダンスの教え子と一緒に、衣装をつけた踊ってくれ、一同感激しました。ペギーさんの大きな家に泊めてもらって、映画の主人公のような気分になってこと、マーガレットさんの100年以上たったアメリカの家をみせてもらったこと、後半泊めていただいたリズ・ドイルさんの家での心暖まるおもてなし、忙しい仕事の合間をぬってかけつけてくれたブライアン君、アメリカーンの夕食に招いてくれたディビッド君等々、忘れ得ぬ思い出を胸に再会を約し、サンノゼを後にしました。

サンフランシスコ金門公園（左から2・3人目が筆者夫妻）

コスタリカ大学スペイン語学級（ネクタイ姿が筆者）

コスタリカ 再訪

会員　河 原　馨
〔岡山サンホセ交流協会理事〕

コスタリカには1973年に行った。2月のサンホセは日本の初夏、ポロシャツに軽い上着といった出で立ち、気持の良い気候であった。迎えに来てくれたのはアテイジョという町に住むロベルトさんと娘さんの二人であった。岡山を出る時は民間使節第一号のふれこみでニギニギしく……であったが。これがコスタリカでの交流第一歩なのだ。迎えの感謝を表わそうにもスペイン語、グラシアス、グラシアスと口から出るのはこの言葉だけなのだ。おかしくて、情なくて、もうはんぺそだった。内山弘子さんに習ったスペイン語もコスタリカに着いた興奮でボーとして次の単語が出ない。仮りの宿から1ヵ月後、日本大使館のお世話でホームステイが見つかった。エレディアという町だ。サンホセから100mほど高い所にある静かな町で実業家のセゲイラさん一家である。老夫婦と子供3人そしてお手伝いさん、長男が建築家で私と同い年、物静かな親日の家庭だった。私のスペイン語は道をたずねるぐらいのもので、サンパツや食堂に行くと違ったメニューになるから、もう恐ろしい。

外人相手のスペイン語学級がコスタリカ大学にあって足しげく通ったが成果は上らずはがゆいかぎりだった。

そんな私がコスタリカに3ヵ月しか居なかったのだから、この国の事についてどれだけ知っているといえようか。岡山市の人達には姉妹交流でいくらか認識された感触を得たが、かたやサンホセ市の人達にはどうだろうか。しかし二度と訪れることはないと思っていたコスタリカに今年7月再び行くことになった。このチャンスを親善のために、せいいっぱい生かすべく決意もあらただ。

プロブディフの印象

会員　金谷啓紀
〔建築都市デザイン研究所代表〕

昭和63年の５月、新緑に包まれたブルガリア第２の都市プロブディフを訪れた。トリモンチウム（３つの丘）につくられた旧市街を中心に発達した人口37万のこの都市は町中でもとても緑が多い。大きなポプラ並木が列び、また葡萄のツルが屋敷の周りにまとっている。バラが咲き乱れている。街を歩いていると、いたるところで鳩のなき声がきこえる。旧市街は石畳が敷詰められ、坂の多いところだが、古い建物が多く歴史を感じさせる町並みで、修復中のところも多い。ローマ時代の遺跡も見つかっているが、その劇場跡では、夏場オペラの上演が行われている。丘にはさまれて、歩行者空間としての大通りがある。人々の活気はここで解る。商店が列び、いつも大勢の人であふれている。裏通りにはこじんまりとしたレストランがいくつもある。東欧でも有数の農業国で、料理よし、チーズよし、ワインよしと３拍子揃っている。丘にのぼって市内を眺めると、旧市街の赤い屋根、その周りの中層のアパート、郊外に新しいアパート群が見える。その外側に近代的な工場群が取り巻き、その外は農場、牧草地である。中規模の、まとまったおちついた雰囲気の都市である。私の訪れたときは、ちょうどメッセ（国際見本市）が開かれており、これは東欧でも最大規模の１つで、日本企業が数社参加していた。

今後プロブディフと岡山が交流を続けていく上では、市民がもっとお互いの文化を知りあうようになればよい。そのためには、児童画の交換、文通などが考えられ、また、半田山にブルガリア種のばら園を作るとか、市民の集まるところに常設のコーナー（他の姉妹・友好都市を含めて）を設けるとかが考えられる。

緑の中のローマ・スタジアム

古墓博物館にて（左が筆者、右は黄館長）

友好訪中での想い

会員　増田心子
〔川崎医大附属病院総婦長〕

「抜けるような青空」の北京空港へ降り立ったのは、昨年10月11日でした。友好訪中団の一員という重責感と、はじめて異文化に接する緊張感で税関を出ましたが、洛陽市の劉先生、呉先生、北京市外事弁公室の方々の笑顔に迎えられて、一度に緊張が解けました。

北京空港から市内に向かう18kmの直線道路、整然と繁った並木に広大な中国大陸を実感しました。案内される建造物、陵墓は1,000～2,000年の歴史をもち、都市そのものが博物館といわれるように、タイムトンネルをぬけて過去の歴史の中にいる錯覚を覚えました。駅も名所も、大勢の人々で、活気に充ちています。若い夫婦に伴われた老人の見物の姿は、日本では少なくなった光景です。

洛陽空港では、小雨の中熱烈な歓迎を受け、８年の交流を重ねていた友好都市ならではの安堵感を覚えました。歓迎夕食会は、終始和やかでしたが、２日目の意見交換では、緊張に充ちた熱い論議が交されました。岡山市に大きな期待が寄せられていることが感じられました。龍門石窟、白馬寺、古墓博物館など見学させていただきましたが、博物館は死者の幸せの地、邙山台地をもつ洛陽ならではの大規模なものです。

中国は、人類の営みの歴史の跡を、一目見たいと願う世界中の人々が参集し、交通、通信、電気、水道などの設備の充実を迫られながら、著しい発展を遂げていると感じました。私の関心事、健康問題は、風土とくらしの中で充分な知恵が生かされておりました。その国の人々と共に感じ、行動できる感性と勇気をもって、ご恩返しの友好活動に参加したいと思います。

「友好都市の想い出」

掛け橋になりたい

昭和62年度派遣交換学生
川 上 尚 子

「岡山市民とサンノゼ市民の交流の掛け橋になりたい。」そんな大きな夢を抱いてサンノゼ入りした私でしたが、一日、一日と日が経つにつれ、学校と家を往復するだけの生活に焦りを感じるようになってきました。何かしなければ……でも機会がない。

私のサンノゼ生活も後半に入ると、生活にも余裕が出てきました。庭に落ちていたりんごの枝を捨い、大学のスピーチの授業で生け花のデモンストレーションをしたり、友人とすきやきをつついたり、遊びに来た子供達と姉さま人形を作ったり。夕食会で踊ったにわかじたての扇舞が大好評で、その後大学、教会などで披露しました。訪問先の小学校で着替える時間が無く、ジーンズとTシャツの上から浴衣を着て、帯を蝶結びにして見せた時の子供達の歓声。以来この即席「浴衣の着付け教室」は恒例となりました。子供達と接するとき、いつも願っていたことは、彼らが大きくなったとき、折り紙の折り方は忘れても、記憶の中に日本のお兄さん、お姉さんと遊んだということが残れば、ということでした。

こうして日々が過ぎていくうち、国際交流に関する自分の考え方が変っているのに気がつきました。国際交流という言葉を特別なものと考え、お膳立てしてもらわないとできないと考えていました。でも私にとっての国際交流は、もっと気軽でいつでも、どこでもできるもの。一般家庭に入り、大学に通い、日曜日には教会へ行くという紛れもない日常生活にこそあったのです。

この素晴らしい機会を与えて下さった方々に心からお礼を言いたいと思います。本当に有難うございました。

ハロウィーンパーティ（左端が筆者）

MY MEMORY SAN JOSE

太陽の町サンノゼ

昭和62年度派遣交換学生
源 通 一 人

太陽がいつも強く照りつける町サンノゼ。長い歴史を感じさせる建築物と次々と出現する近代的な高層ビルが同居している町。交換学生としてサンノゼに一年間滞在する機会を得られたことに今とても感謝しています。それは自分にとって貴重なすばらしい経験となっています。生まれて初めての海外生活。当初はおっかなビックリの連続でした。でもやさしいホストファミリーやパシフィックネイバーズの方々の暖かい励ましのおかげで楽しく過ごすことが出来ました。週末には、サンフランシスコやモントレー・カーメルへのドライブやパーティー等、家族の一員のように親しく付き合っていました。

大学では、授業やクラブ活動を通してアメリカ人に限らず、アジア・ヨーロッパからの留学生達とも知り合えました。キャンパスの芝生の上で寝ころんでディスカッションし、スピーチのクラスで大恥をかき、タップダンスを踊り、ドラマを演じ、春休みには死の谷という名の砂漠での課外授業に参加。とても刺激的でした。

交流活動の一つとして、小・中学校の訪問を意欲的にしました。子供達と折り紙、ケン玉、コマ、紙風船で遊び、また日本文化や岡山について話し合ったりしました。終了後、握手やサインを求められ、今でも子供達の小さな手と好意的な眼差しは印象深く残っています。

この一年間で沢山の人々と語り、友達になれたことは自分にとって忘れられないとてもすばらしいことでした。これからもこの経験を生かして、国際交流に参加させて頂きたいと思っています。

ホストファミリー等と（中央が筆者）

岡山とサンノゼでの生活

昭和63年度受入交換学生
パトリシア・ドリスコール

私は岡山にはみじかい間しか居なかったのですが、たいへんいいけいけんでした。その間に二けんの家にホームステーさせていただきながら、日本語、お花、書道、千代種人形、そしてお琴を勉強しました。このしゃしんは私のさようならパーティーの時のしゃしんです。土屋先生といっしょに琴をひいた時のしゃしんです。たくさんのお友だちが出来て、日本語、日本の文化などいろいろな事を習う事が出来て、とてもうれしかったです。私の一生の思い出としていつまでも大事にしておきます。本当にどうもありがとうございました。

今学期は日本語、人文学、水えい、それからソーシャルダンスを取っています。五月にそつぎょうしてから、フライトアテンダントになるつもりです。

十二月の中ごろに私のさいしょのホーストマザー西山央子さんが二日ほど私に会いに来て下さいました。とてもうれしかったです。

一か月に二度お琴のレッスンをうけています。楽しいです。このほかには日本語桜クラブとパシフィックネーバーズのミーティングに行っています。

また岡山に行ける日を楽しみにしています。みな様本当にどうもありがとうございました。

見事な琴の調べを披露（送別会にて）

MY MEMORY OKAYAMA

おかやまが大好き！

昭和63年度受入交換学生
ディビッド・アルノ

皆様どうもありがとうございます。私が岡山では本当に楽しくやっています。市役所や先生方や引き受け家庭の皆さんに色々お世話になりありがとうございます。市役所のおかげで困る事はあまりありませんでした。けれども日本人の気前のよさと親切さには、時々困りました。日本人はよく人に物をあげたがりますが、いつ貰ってもいいとか、いつ貰わない方がいいのか私はまだよく分かりません。

岡山は大好きだから八月に帰る事はつらいです。仲のよい友達ができましたがもっとたくさん友達ができたらいいと思います。ただ、滞在中はいい事ばかりがあったわけではありません。びっくりした事には岡山は大好きなのに日本に長い間住む事はできない気がします。なぜなら、日本では私はいつも外人です。いくら長い間日本に住んでも日本人は私を日本人のように認めないと思うからです。

岡山に来てから色々な授業を取ってたくさん習いましたが、自分の内面について考える事も多くなりました。きっといつか岡山に戻って来たいと思います。その時はまたよろしくお願いします。

空手は日本空手協会の指導で３級に（黒住教武道館）

ふれあい

▲姉妹都市親善訪問写真展を開催（63．3．4～9）
サンノゼ市との姉妹都市縁組30周年を記念した『サンノゼ市親善訪問団』（62年10月派遣、団長：松本一市長）のサンノゼ・サンホセ両市での交流の様子を写真パネル110点で紹介。会場の表町地下タウン内の市民ギャラリーでは、市民や買い物客が足を止め、熱心に見入っていた。

▲咲かせよう！友好の洛陽ボタン1千株（63．4．14）
瀬戸大橋博'88岡山の『洛陽の日』記念式典で、洛陽ボタン1000株が岡山市に贈られた。岡山市日中友好協会の仲介で両備バスが寄贈したもので、一部は会場内(写真)にも飾られ入場者を楽しませた。市では近く市立半田山植物園に『洛陽ボタン園』として整備する予定。

▲瀬戸大橋博で姉妹・友好都市を紹介（63．3．20～8．31）
瀬戸大橋架橋記念の『瀬戸大橋博'88岡山』の国際交流館では、岡山市の4つの姉妹・友好都市を紹介する写真パネル・特産品・民族衣裳等が展示され、館内は外国ムード一色に。併設のワールド・バザールでは、サンホセのコーヒーや洛陽の唐三彩も即売され、人気を集めた。

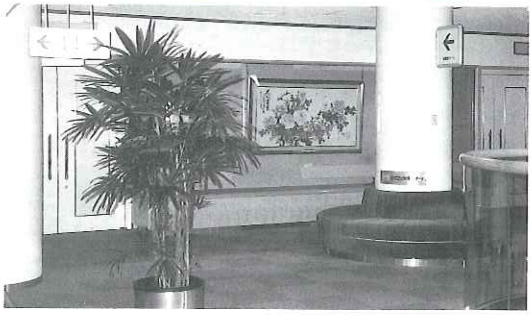
▲サンノゼ市瀬戸大橋視察団が来岡（63．5．18）
一行はサンフランシスコのゴールデン・ゲート橋の架橋技師チャールズ・クリングさんら9人で、「同橋と姉妹縁組した瀬戸大橋はグレイト＆ハッピー」との感想も。市民宅へのホームビジットでは和やかに歓談する中、友情を確かめ合った。写真は市長室でのスナップ。

▲サンホセの教壇に立つ岡山の先生（63．4～）
市立興除小学校教頭（当時）の山田羊平さんは、文部省の委嘱を受け、サンホセ市にある日本大使館附属日本人学校長として赴任（3年間滞在）。山田さんは同行した夫人（元教師）とともに教鞭をとる一方で、岡山・サンホセ両市の交流のパイプ役として活躍中。写真は入学式風景。円内は山田校長。

▲Hello! Sister City（63．6．2来岡、8．12渡米）
サンノゼ市との交換学生の相互派遣は30回を越え、今年はディビット・アルノ君とパトリシア・ドリスコールさんが来岡し、光元求佳さんと藤本裕美さんが渡米。異文化を学びながら親善大使として活躍。写真は岡山駅出発(左)と岡山市役所での記者会見(右)の模様。

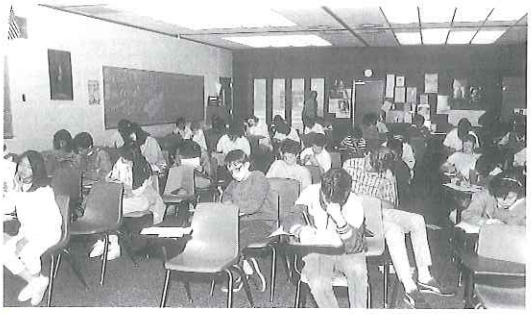
トピックス

▲生きたアメリカ英語をどうぞ（63. 8～）
2回目を迎えた外国青年招致事業（外務・文部・自治省等が主催）による英語指導のため、アラン・サカセガワさんとクリス・セモンセンさん（2人はカリフォルニア州立大学卒業）が来岡。ユーモアあふれる楽しい授業やアメリカ文化の紹介は中学生にも大好評。写真は市長表敬訪問の様子。



▲図書館に咲く洛陽ボタン（63. 12. 6）
市内在住の中村包行さん（岡山アスコン社長）は『洛陽市栄誉証』受賞を記念して、洛陽の画家・謝執初さん作の洛陽ボタンの水彩画を市に寄贈。横1.9m、縦1.1mの大作で、市では市立中央図書館2階ホールに展示し、唐三彩の馬像（62年1月設置）とともに両市友好のシンボルとなりそう。

▲拡げよう！姉妹校交流の輪を（63. 8. 17～31）
サンノゼ市のブラックフォード小学校と姉妹校縁組を結んでいる市立西大寺小学校の児童・教諭ら26人が同校を親善訪問（団長：山本美都城校長）両校は昭和61年の縁組以来、絵画・作文の交換や文通を重ねてきたが、このたびはホームスティや学校訪問を通じてアメリカ文化に直接触れ、見聞を広めた。



▲サンノゼの中学生と数学交流20年
昭和44年に始まった岡山サンノゼ姉妹都市中学生親善交換数学大会が20周年を迎えた。この間、岡山側9千6百人、サンノゼ側5千人が参加し、友好親善と学力向上に大きな成果を上げている。写真は第20回大会参加のサンノゼの中学生たち。岡山側は市立山南中学校が参加。

▲『岡山・洛陽展』で洛陽名産を紹介（63. 10. 15～19）
日中平和友好条約締結10周年を記念して、岡山県日中友好協会等が市内の展示場で開催したもので、洛陽市特産の唐三彩の馬・らくだ像、タイル絵、麺人形、工芸書画等を展示。会場では来日中の書家・画家の揮毫即売も行われ、多くの市民の関心を集めた。

▲『姉妹縁組サンホセ20周年記念展』開催（元. 1. 18～30）
サンホセ市との市民レベルの交流を進めている岡山サンホセ交流協会の主催で、コスタリカを紹介する小学生の絵画約90点のほか木工細工・陶芸・皮製品等約100点を展示。見学者は展示品を手にとりながら、中米サンホセに想いを馳せていた。期間中には駐日コスタリカ代理大使も来場し、懇親を深めた。

ボランティア

留学生と共に

ホームステイ引受家庭
サンノゼ交換学生教師
安 藤 みさを〔主婦〕

早いもので、ホストファミリーを引き受けて四年になります。子供達は、留学生が来るのをいつも楽しみにしています。最初のブライアン君は、長身のとてもおとなしい青年。翌年のクリス君は、明るく活発で、それでいて恥かしがりや。今年のディビッド君は、まじめで勉強家です。暇さえあれば日本語の勉強に余念がありません。三人とも個性豊かで好感の持てる青年達です。

彼等は実によく、日本について勉強してきています。そして、短い間にできるだけ多くの事を吸収して帰ろうと必死です。留学生と生活を共にし、一緒に学んで思うことは、彼等が日本の若者に比べ精神的にたくましく、しかも細やかな神経を持っていることです。自由で豊かな国からやって来た彼等が、意外につつましく、堅実であるのには驚かされます。両親から小遣いにと送られたお金は絶対使わなかったり、水がもったいないと洗濯はためすすぎをし、こわれかけた時計も大事に使う彼等は、日本人が忘れかけている大切な何かを持っています。

言葉や文化の壁を越えて、心と心が通いあうことのすばらしさを体験する度に、ホストファミリーを引き受けて本当によかったと思うのです。そしてこういうチャンスを与えて下さった関係者の方々に感謝すると共に、このすばらしい体験を、できるだけ多くの人に伝えたいと思うのです。人の心に国境はありません。心を開いてつきあえば、友情の輪は広がっていきます。平成の世は国際化の時代だと思われています。瀬戸大橋も開通し、岡山も国際的に飛躍しようとしています。微力ながら、これからも国際交流のお役にたてばと思っています。

交換学生ディビット君と（右端が筆者）

WELCOME TO OKAYAMA

会員・ボランティア通訳
ホームステイ引受家庭
宗　　一 美〔主婦〕

これまで何度か通訳のボランティアをさせて頂き、サンノゼ・オーストラリア・イギリス・デンマークの方々と出会い、岡山にいながら世界中がこの手にとびこんでくるような楽しさを味わっています。外国からのお客様は皆様、岡山を訪れてとても満足して下さいます。岡山は、後楽園・倉敷の日本情緒あり、瀬戸内の自然あり、高度な技術を駆使した瀬戸大橋ありと、外国の方々にとっても魅力的な観光地であると思います。

外国の方をご案内していると、日頃なにげなく見過ごしていることを尋ねられたり指摘されたりしておもしろいものです。例えば、倉敷美観地区で白壁の建物がもと蔵であった事を話すと「なぜ倉庫をそんなにきれいにしているの」と聞かれたり、日本のメロンが一個何千円もすると話すと目を丸くして驚かれたり……。たまたま鯉の品評会に通りかかり「何百万円もする鯉もいる」と説明すると「なぜそんなに高いの？」と聞かれ返事に窮した事もあります。サンノゼ市の公共事業をしていらっしゃる方は、市内の町並を見て「私たちの所では電線を地下に埋め、大きなけばけばしい看板を規制している」と話して下さいました。そう言われてみれば、私たちの町、看板や電柱がまだまだ無造作に並んでいますね。

この奉仕を通して、自分の国の姿を外国の方の目を通して改めて認識できることは私にとって一番の収穫です。通訳として私自身ももっと勉強し、岡山を訪れて下さる外国の方に楽しい思い出を持ち帰って頂けるようお手伝いしたいと願っています。

倉敷・大原美術館にて（左端が筆者）

奮　戦　記

ボランティア通訳をして思うこと

会員・ボランティア通訳
谷川明義
〔谷川損害保険事務所〕

私は本協議会をはじめ、いくつかの国際交流団体に所属しており、ボランティア通訳の依頼があれば、積極的にお引き受けしております。

昨年の10月には、「デンマーク・岡山貿易セミナー」のお手伝いをし、その際貴重な体験をさせて頂きました。なかでも最も印象的だったのは、セミナー終了後の関係者だけのパーティーでのことです。デンマークの代表の方がまずねぎらいの言葉を述べ皆に拍手を求めたのは、スタッフの中で最も裏方を務めた方に対してでした。そして岡山側の関係者全員、我々ボランティア通訳、と続き、最後はなんと、その会場で飲み物等を運んで下さっていたホテルの従業員に対してでした。このセミナーは開催に至るまで準備が大変であったと聞きました。しかしこのパーティーでのデンマーク側の心温まる気くばりを目の当たりにして、岡山側の関係者の労が充分に癒されたであろうことは想像にかたくありません。

私は、チボリ公園を誘致することと合わせて、このデンマーク人の気くばりの精神を岡山市民皆が取り入れることができるならば、岡山はずっと魅力的になると確信いたします。一例をあげましょう。車で町を走っていると、タバコや空缶を平気で投げ捨てる人をしばしば見かけます。私はこの人たちに対して、「もしあなたが今やったことを外国人旅行者が眺めたら、岡山のイメージがダウンすることを考えてはどうですか？」と言いたい。ハードの面ばかりが叫ばれていますが、ソフトの面を見直す時期にきていると思うのです。

いま、岡山市が国際都市になるために最も必要なことは、岡山市民ひとりひとりが、岡山に来られる外国人に対して、気くばりの気持を持つことではないでしょうか。

豪州アデレード市で（協議会Ｔシャツ姿が筆者）

忘れえぬ二つの思い出

会員・ボランティア通訳
ホームステイ引受家庭
吉岡洋子〔主婦〕

滞米中の私達家族の生活は、地域の多くの人々の善意で支えられていました。そのことに対する感謝の気持から帰国後ボランティア活動を始めました。ボランティア通訳をさせていただいた中で忘れられない思い出が二つあります。一つはカナダの高校生を広島に案内した時のことです。原爆ドームの前では記念にと写真を写したりしていた彼女でしたが、資料館に入ったとたん、顔色が変ったのです。そして説明しようとする私を制し、一人で見せてほしいと言いました。しばらくして彼女は目を赤くして無言のまま出てきました。帰りの新幹線の中で一言、「今日見たことを帰国して多くの人に伝えなくてはと思いました。」と言ったのです。私も「どうかそうして下さい。」とだけ答えました。悲惨な現実は言葉以上に多くのことを彼女に語りかけたのでしょう。私はついに一言の説明もしないまま帰ってきたのです。

もう一つは、学者知事として知られた某知事の表敬訪問のときのことです。知事は部屋にかかっていた額を指さされて、「これを説明してさしあげて」と言われました。それには「天空海」とだけ書かれていたのです。私は何と言ってよいのかわからず、しばらく言葉が出てきませんでした。近くにいた人の機転で何とかその場をしのぐことは出来ましたが、知事がお伝えしたかったであろう真意のところはわからずじまいだったのです。いつかお聞きしてみようと思っているうちに、ついにその機会もないままその方は亡くなられました。この二つの出来事は、私に通訳は言葉だけの問題ではないということを教えてくれたような気がするのです。

この活動を通していろいろな人との出会いがあり、よろこびがあり、そして多くの事を学ばせていただきました。このことを私は本当に感謝しています。

カナダの高校生と広島にて（右が筆者）

ホット三二情報

○新岡山空港開港記念「日中友好岡山県民の翼訪中団」一行100人が洛陽市を訪問。県民が大挙訪中したのは初めて（63. 3. 14～19）

●財日中経済協会常任顧問の岡崎嘉平太氏（岡山県出身）が洛陽市から「名誉市民」の称号を授与される（63. 3）

○パシフィック・ネイバーズ理事のトーマス・スタッツマン夫妻が来岡。市民宅にホームスティしながら、市内を見学し、親善を深めた（63. 4. 1～3）

●サンノゼ商業会議所前会頭フィリップ・シムス氏と同貿易委員会理事アレキサンダー・ボジノビッチ氏が瀬戸大橋と米国ゴールデン・ゲート・ブリッジの姉妹橋調印式訪日団員（サンノゼ市代表）として来岡（63. 4. 3～6）

○洛陽市車いすマラソン選手3人が来岡し、瀬戸大橋架橋記念「ブリッジ・ウオーク」に参加。一行は社会福祉施設旭川荘入所生らと共に「車いす親善スポーツ大会」を楽しみながら友好を深めた（63. 4. 3～5）

●瀬戸大橋博'88岡山会場で「姉妹・友好都市の日」が開催された。洛陽市代表団一行3人が来岡したのをはじめ、各国大使・総領事らが出席し、姉妹・友好都市交流の促進を確認した（63. 4～6）

○「大商業祭インオカヤマ」の会場となった岡山城内に姉妹都市コーナーが設置され、岡山市の姉妹・友好都市の概況や国際協力・ボランティア活動等を写真で紹介し関心を集めた（63. 4. 29～5. 5）

●サンノゼ市のマーキュリー・ニュース社記者テレサ・ワタナベ氏が岡山市の行政・農業事情及び瀬戸大橋博等の取材のため来岡（63. 5. 27～30）

○本協議会会員で建築都市デザイナーの金谷啓紀氏が市街地視察のため、プロブディフ市を訪問（63. 7　P. 5参照）

●サンノゼ市在住のバイロン・ホンダ夫妻が教会の英語講師として来岡（63. 8. 1）

○洛陽大学副教授の李鴻恩氏が市内で開催された中国語研修講座の講師として来岡（63. 8. 19）

●岡山市少年サッカー訪中団一行22人が洛陽市を訪問。第4回日中友好少年サッカー交流大会に参加し、友好を深めた（63. 8. 23～29）

○洛陽市バスガイド研修生4人が来岡し、市内のバス会社で観光案内・添乗等の専門研修を受けた（63. 9. 1～30）

●姉妹・友好都市交流についての認識を深めようと市立中央図書館で第3回国際交流展が開催され、交流の記念品約50点を展示（63. 9. 6～10. 30）

○山陽学園短大がサンノゼ市郊外のディアンザ・カレッジと姉妹大学縁組を締結し、学生交換等を実施（63. 9）

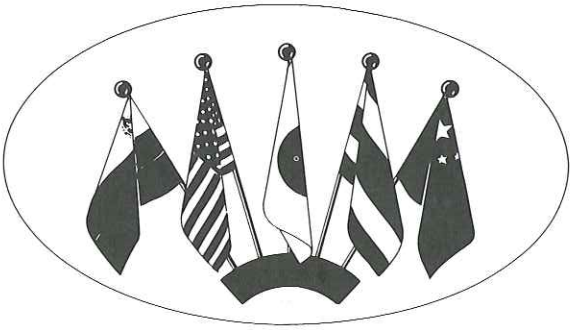
●国際交流等で洛陽市に貢献した外国人に与えられる「洛陽市栄誉証」が岡山市民の中村包行氏、松田基氏に授与された（63. 10）

○洛陽電視台（テレビ局）長ら3人がTV技術視察のため来岡。友好縁組を結んでいる岡山放送で技術研修を受けたことがある董憂林氏も（63. 11. 13～20）

●洛陽市の所在する河南省の人民対外友好協会代表団3人が来岡。岡山・洛陽の交流について協議（63. 12. 8）

○洛陽市から研修生・留学生らが次々と来岡。元年2月現在12人が在岡しており、それぞれの分野で勉強中。

●姉妹・友好都市のトップが次々と交替。プロブディフ市長がディミタール・バカロフ氏からトドール・ペトコフ氏に。武振国洛陽市長が転任され、韓西英氏が市長代理に就任（今春には新市長に選任される予定）。また、サンホセ市幹部にも異動があった。



こちらデスク

元号も改まった本年は、本協議会発足5年目を迎え、サンホセ縁組20周年、市制施行100周年等と合わせて大きな節目の年となります。

現在、市内には国際交流の場として、岡山国際交流プラザや日米文化センター等がありますが、今後、県国際センター（仮称）の建設や改築される市立幸町図書館への国際交流フロアの設置等が計画されています。また、市制施行100周年記念事業として建設が予定されている芸術音楽ホール（仮称）やチボリ公園は国際的イベント・交流の舞台となることが予想され、電柱の地中化・歩道のカラー舗装等と合わせて、国際都市おかやまの基盤づくりが着々と進んでおり、たのもしい限りです。

会員・ボランティアの皆様には、今後とも積極的に事業・活動に御参加・御協力いただき、岡山の国際化をみんなで盛り上げていきましょう。